

第4章 基本的な考え方

1 基本理念・基本方針

(1) 基本理念

持続可能な資源循環型社会の構築では、大量廃棄が大量リサイクルに変わるだけとならないよう、まずは発生抑制（リデュース）、次に再使用（リユース）、そして最後に再生利用（リサイクル）の3Rを進め、資源化できないごみについては、熱エネルギー回収を進め、残さは安全かつ適正に処理しなければなりません。

3Rの推進には、市民の一人ひとりが自らライフスタイルを見直し、ごみを減らし、ごみを出さないようにすることが必要であり、本市は3R促進のために、市民・事業者と協働で取り組むことが必要です。

このため、本市は、前計画と同様に、環境への負荷ができる限り低減する循環型社会の形成を目指し、前計画の基本理念を引き継ぎます。

「もったいない」からはじまる循環型社会

(2) 基本方針

ごみの現状、評価から抽出された課題を整理し、これらの課題を解決するため、次に示す基本方針を掲げ、具体的な施策を進めます。

基本方針1 市民、事業者、市の協働の推進

市民、事業者、市は、相互に連携を図りつつ、循環型社会の形成への積極的な参加と、適切な役割分担のもとで、様々な施策に取り組み、3Rを推進します。

基本方針2 ごみ減量と資源化の推進

一般家庭や事業所から出るごみの排出抑制を図るため、家庭系ごみ・事業系ごみの減量に向けた施策を実施していきます。

また、ごみとして出されている資源を有効活用するため、新たな資源物の分別収集に取り組むこととします。

基本方針3 効率的なごみ処理による低コスト化

ごみ減量施策によるごみ処理量の減少に伴い、ごみ処理施設の効率的な運用について検討します。

また、費用対効果と人員体制を考慮した上でごみ収集体制等の見直しを行い、ごみ処理コストの削減を図ります。

基本方針4 安全で安定的な処理施設の確保

ごみ処理の安全・安心を確保するため、施設の老朽化に対応する、適切な施設整備と更新計画策定の準備を進めます。

なお、施設整備にあたっては、ごみの処理・処分量に応じた適正な能力を有し、環境の保全及び環境負荷の低減に配慮した設備の確保に努めます。

2 計画目標

本計画では、平成22年度を基準年、平成33年度を計画目標年次とし、基本方針に基づく具体的な施策を展開することにより次に示す目標の達成を目指します。また、表4-1に計画期間における目標を示します。

目標1 家庭系ごみ 10%削減

家庭系ごみ排出量を平成33年度（計画目標年次）において、平成22年度（基準年）に対して10%、6,965 t削減します。

目標2 事業系ごみ 20%削減

事業系ごみ排出量を平成33年度（計画目標年次）において、平成22年度（基準年）に対して20%、4,025 t削減します。

目標3 1人1日当たりのごみ排出量 100g減量

1人1日当たりの家庭系ごみと事業系ごみの合計を100g減量します。

目標4 資源化率 30%達成

資源化率を平成33年度（計画目標年次）において、30%を達成します。

目標5 ごみ処理費（1人に係る年間）10%削減

1人に係る年間ごみ処理費を10%削減します。
（建設・改良費を除いたものとします。）

表4-1 計画期間における目標

目標	項目	目標	実績値	目標値	備考 注4-1
			平成22	平成33	
1	家庭系ごみ排出量 (t/年)	平成22年度に対して 10%削減	69,645	62,680	6,995t : プール 約15杯分の水の重さ
2	事業系ごみ排出量 (t/年)	平成22年度に対して 20%削減	20,126	16,101	4,025t : プール 約9杯分の水の重さ
3	1人1日あたりのごみ 排出量 (g/人・日)	平成22年度に対して 100g削減	799.3	699.3	100g : レモン1個分
4	資源化率 (%)	平成33年度に 30%以上の達成	21.7	30.0	
5	ごみ処理費(1人に係る 年間) (円/人・年)	平成22年度に対して 10%削減	13,396	12,056	

注4-1) 1. プールを長さ25m、幅15m、深さ1.2mとしたとき
2. 標準的なレモンの重量を1個100gとしたとき

3 目標達成時の排出予測

目標達成時の排出予測は、基本方針に基づく具体的な施策を展開することで、今後予測される1人1日当たり排出量の結果を表4-2に、ごみ排出量の結果を表4-3、そして資源化、ごみ処理経費の結果を表4-4に示します。

また、家庭系ごみ、事業系ごみ、1人1日当たりのごみ排出量及び資源化率のそれぞれの予測結果を図4-1、図4-2、図4-3及び図4-4に示します。さらに、ごみ処理費（1人に係る年間）の予測結果を図4-5に示します。

なお、計画収集人口の将来予測については、本市の過去10年間の実績値を基に最小二乗法^{注4-2)}により予測しました。

表4-2 1人1日当たり排出量の予測（目標達成）

区分\年度		単位	実績値	予測値		
			平成22	平成24	平成28	平成33
計画収集人口		人	307,718	308,139	308,071	307,071
家庭系	燃やせるごみ	g/人・日	481.2	481.2	510.1	489.8
	燃やせないごみ及び直接埋立物	g/人・日	138.9	139.4	67.0	65.8
	資源	g/人・日	102.5	102.0	138.2	150.4
事業系ごみ		g/人・日	179.2	176.9	148.7	141.8
集団回収		g/人・日	36.0	36.0	36.0	36.0
総計（資源、集団回収除く）		g/人・日	799.3	797.4	725.8	697.4

表4-3 ごみ排出量の予測（目標達成）

区分\年度		単位	実績値	予測値		
			平成22	平成24	平成28	平成33
家庭系	燃やせるごみ	t	54,046.81	54,121	57,354	54,898
	燃やせないごみ及び直接埋立物	t	15,598.09	15,673	7,531	7,376
	合計	t	69,644.90	69,794	64,885	62,274
	資源	t	11,507.56	11,468	15,539	16,861
事業系ごみ		t	20,126.37	19,891	16,724	15,891
家庭系ごみ+事業系ごみ		t	89,771.27	89,685	81,609	78,165
集団回収		t	4,046.67	4,052	4,050	4,038
総計		t	105,325.50	105,205	101,198	99,064

注4-2) 最小二乗法とは、いくつかの観測値をもとにして、誤差の2乗の和を最小にすることにより、最も確からしい値を求める方法

表 4-4 資源化、ごみ処理経費の予測（目標達成）

区分\年度	単位	実績値	予測値		
		平成22	平成24	平成28	平成33
家庭系ごみの資源化量	t	11,184.94	11,177	14,908	16,209
クリーンセンターでの資源化量	t	7,655.27	8,267	9,550	9,557
集団回収	t	4,046.67	4,052	4,050	4,038
資源化量合計	t	22,886.88	23,496	28,508	29,804
資源化率	%	21.7	22.3	28.2	30.1
ごみ処理経費（1人に係る年間）	円	13,396	13,396	12,800	12,056

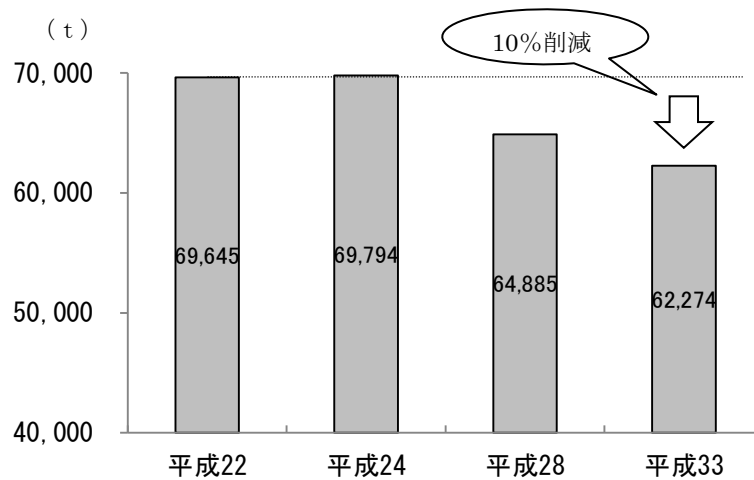


図 4-1 家庭系ごみの目標達成時の予測

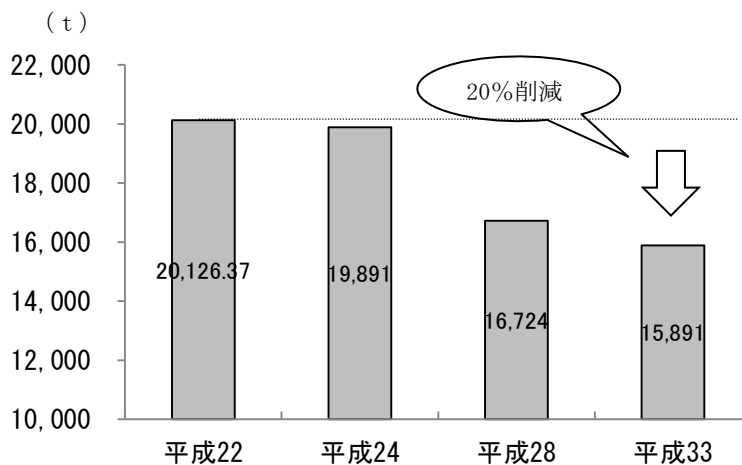


図 4-2 事業系ごみの目標達成時の予測

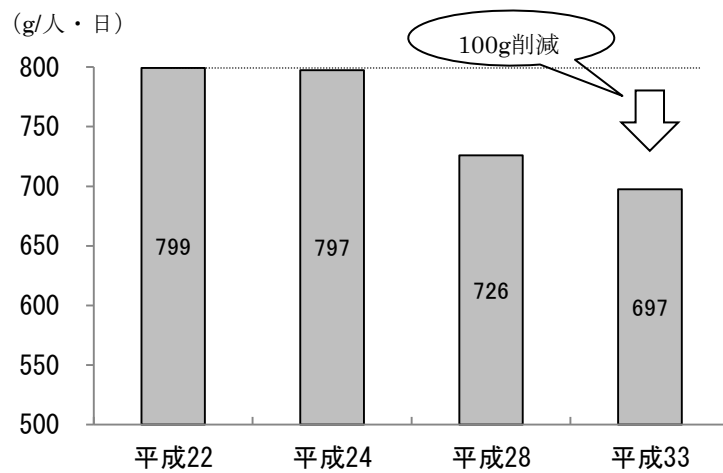


図 4-3 1人1日当たりのごみ排出量の目標達成時の予測

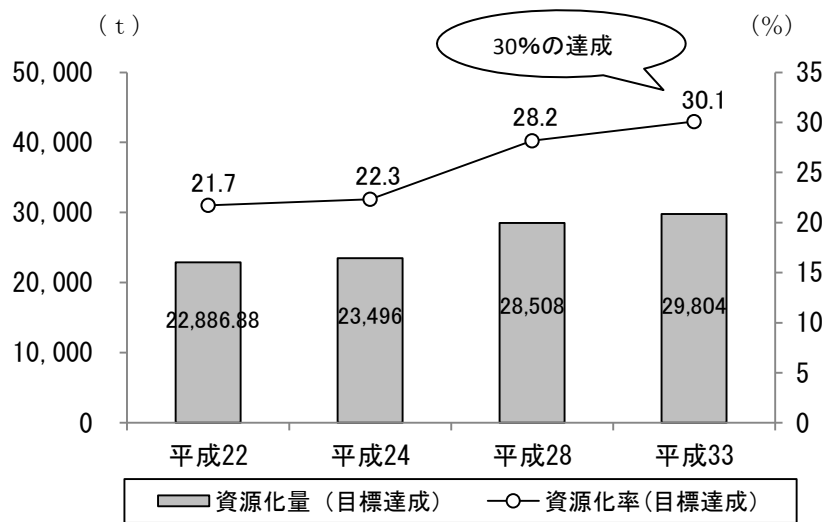


図 4-4 資源化率の目標達成時の予測

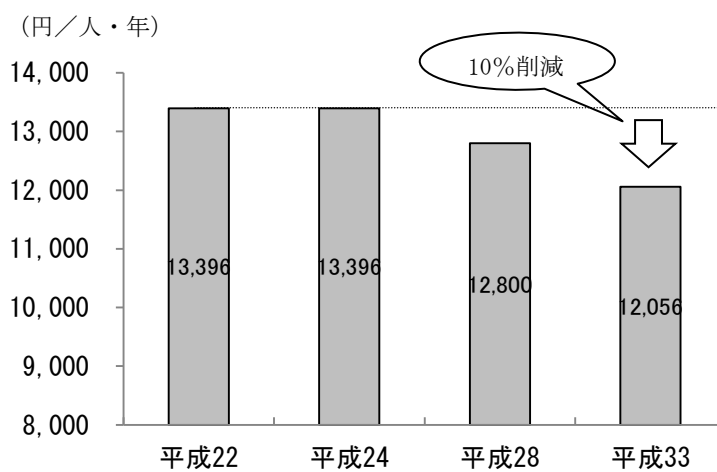


図 4-5 ごみ処理費（1人に係る年間）の目標達成時の予測